

販売元製薬会社の社員有志が告発本「安全」とワクチンは売りたいくない!

この10月から世界で初めて、日本だけで安全が確認されていない自己増殖型レプリコンワクチンの接種が開始されます。副作用や後遺症が未確認のまま、人体実験で18人が死亡している新種のワクチンが全国で接種されようとしています。さらにこのワクチンは打った人が打っていない人に体内で増殖したmRNAを「伝播」させるといふ、新たな不安要素が指摘されており、差別や風評、同調圧力、地域封鎖などのいつか通った社会混乱を引き起こす可能性があります。

以下、レプリコンワクチンを販売するMeiji Seikaファルマ(株)の現役営業社員グループが内部告発した『私たちは売りたいくない!』(方丈社刊)から抜粋します。

- なぜ、製薬企業の現役社員が、クビを覚悟してまで本書を世に問うのか
- これまでの業界常識では2例目の死亡報告が出たら一旦接種中止
- レプリコンワクチンを売りたいくない理由
- 設計上、自己増殖を止めるブレーキがないという不安にどう応えるか
- ワクチンを打っていない人にも、有害事象を与えるシエディング(伝播)の不安について
- Meiji Seikaファルマが薬害に加担した製薬企



危機管理コンサルタント 越智文雄の 時論・持論・自論

〈第30回〉レプリコンワクチンの一時中止を

業として、黒い歴史を残す可能性も
○自分や家族にも打たせたくない商品が売れるのか
○私たちは「安全だ」と胸を張れないワクチンは「売りたいくない!」のです
といった内容の本です。

飲食店や病院では 入店禁止の張り紙も

製薬会社の社員が家族に打たせたくないという安全性が証明されていないワクチンを市民、町民に打たせてはいけません。すでに飲食店や美容院、病院で「レプリコンワクチン接種した人は入店禁止」という張り紙が貼られはじめています。差別や風評が地域社会を混乱、分断することのないように、首長、議員はレプリコンワクチン接種の一時中止と別のワクチンへの変更を決定してください。

詳しくは、堤未果のアンダーワールドinレディオを。

「待ったなし」照明の2027年問題 来年度予算に間に合わせなくては

アイリスオーヤマが衝撃のテレビCMを流しています。省エネソリューション「最後の1本」篇と名付けて、2027年12月に事務所のみならずが見守る中で、蛍光灯の最後の1本がチカチカと点滅し、そして消える。みんなは涙を流して崩れ落ちる。2027年に蛍光灯はなくなりません。経産省、環境省発表。とフリップ。

首都圏だけに放映されていたのか、先日まで気がつかなかったのですが、照明の歴史を彩る傑作CMです。本誌でも昨年来警告し続けてきた照明の2027年問題をたった30秒で全国民の頭に刷り込む名CMです。今年2月に経産省、環境省の連名で出された自治体への事務連絡は、いまだに届いていない自治体セクションもあり、民間

へは市町村が周知することになっていた丸投げの無責任通達でした。本来ならば昨年11月の水銀水保条約締結と同時に政府が全国の官民に知らせるべき緊急事態でしたが、政府の対策が取られないまま、民間コンサル企業の意見広告と照明メーカーのテレビコマーションで知ることになった行政の大失策です。この2027年問題にはアイリスオーヤマさんが言っているように「でも安心してください、レンタルならば初期費用も要りません」という解決策しかありません。

自治体の2027年問題担当課のみならず、または縦割りの施設管理担当のみならずは、いままさに来年度の予算要求に全施設のLED化対策予算を計上してください。今回間に合わなければ来年度も棒に振ってしまいます。首長、議員のみならずは予算査定で速やかに予算案を通して、年度内でもスタートさせてください。

アイリスオーヤマのCM動画(最後の1本編)



▲「社長、これが最後の一本です。」「ストックは?」



▲「ないです。もう製造禁止です。」



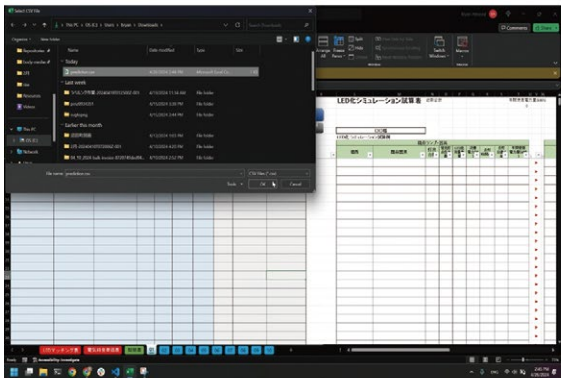
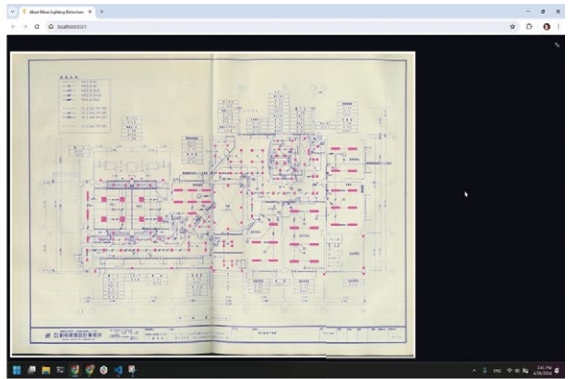
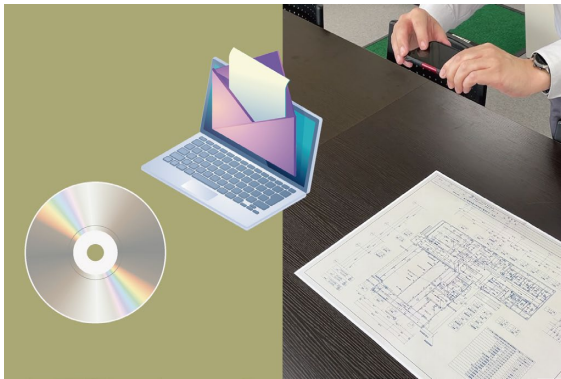
▲「(蛍光灯が消えて) ああ。」



▲2027年蛍光灯製造禁止



して、黒い歴史を残す可能性も
○自分や家族にも打たせたくない商品が売れるのか
○私たちは「安全だ」と胸を張れないワクチンは「売りたいくない!」のです
といった内容の本です。



▲AI図形認証プログラムで数週間から数ヶ月かかる試算を僅か数分で作成することが出来る

NEW AKARIMIRAI PROJECT
AKARIMIRAI
LED
PERFECT
MANUAL

akemirai
照明LED化パーフェクトマニュアル

2027年問題 カネもない、モノもない、ヒトもない、どうする！
政府施設・自治体施設を
一週にLED化しなくてはならない時に読む本

▲自治体LED化
パーフェクトマニュアル

さい。ただし、数百、数千にのぼる施設の数十万本の照明のLED化予算を積算するのは極めて困難です。建築営繕の担当マンパワーでは到底捌ける仕事ではありません。

全職員総出で数ヶ月かけて照明種別毎に数を数えて、さらに1年かけて物価本をめぐり、公共工事単価を掛けて積算するしありません。その試算がでるころには中国からの輸入資材が高騰し、働き方改革で工事費も倍増しているかもしれません。

2027年までまだ3年あるのではなく、もう資材と工事屋の分捕り競争は始まっているのです。

アイリス流に言うと、「でも

〈筆者略歴〉
株あかりみらい代表取締役。北海道大学卒業後、北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、日本除菌連合の会長を務める。札幌にかがでる経済人ネットワーク主宰。

安心してください」「あかりみらいが、AI図形認証プログラムで予算試算をして、リース設計も削減電気料金も削減CO2量も算定します」

あかりみらいでは、今月、全国の自治体の照明2027年問題を解決させる「自治体完全LED化パーフェクトマニュアル」を出版し、全国自治体に贈呈しています。民間の病院、ホテル、学校、工場などの経営者の皆さんも相談ください。

また、LED化予算要求に悩んでいるみなさまに解決策を詳しくアドバイスするオンラインセミナーを開催しているので、ぜひ参加してください。

検索↓あかりみらいオンラインセミナー。